

2026年5月10日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」  
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -  
(マタイによる福音書 28:19~20)

# 復活節第6主日

母の日・定期教会総会

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:45

〈神の招き〉

前奏 ① 愛するイエスよ、我らここに集い バッハ  
② 主なる神よ、我らみな汝を讃えん バアルター

招きの詞 詩編51編9~14節

交読詩編 15:1~5

讚美歌 11

〈神の言葉〉

聖書 サムエル記上1:9~20  
(旧約 聖書協会共同訳 412頁)  
ヘブライ人への手紙4:14~16  
(新約 聖書協会共同訳 396頁)

祈禱  
讚美歌 57  
説教 「堂々と恵みの座に近づこう」  
熊江秀一牧師

祈禱  
黙想  
讚美歌 226

〈神への応答〉

使徒信条  
献金  
主の祈り  
宣教報告②  
頌栄 24

派遣と祝福  
後奏 ① わが命なるキリストよ レーガー  
② 主に感謝せよ ブクステフーデ

宣教報告①

夕礼拝 18:00~19:00

〈神の招き〉

前奏 フーガ ト長調 バッヘルベル

招きの詞 詩編51編9~14節

交読詩編 15:1~5

讚美歌 336

〈神の言葉〉

聖書 ホセア書14:9~10  
(旧約 聖書協会共同訳 1400頁)  
ルカによる福音書7:24~35  
(新約 聖書協会共同訳 114頁)

祈禱  
讚美歌 169 (1、2、6)  
説教 「知恵の子として歩む」  
佐藤潤伝道師

祈禱  
黙想  
讚美歌 470

〈神への応答〉

使徒信条  
献金  
主の祈り  
宣教報告  
頌栄 26

派遣と祝福  
後奏 高きにいます神の栄光あれ ツァハウ

## 次週の礼拝(5月17日) 永眠者記念礼拝

① 9:00、② 10:30

説教「神の栄光を見る」

熊江秀一牧師

エゼキエル書37:11~13、  
ヨハネによる福音書11:38~44  
交読詩編102:13~19  
讚美歌16、385、575、24

夕 18:00

説教「安心して行きなさい」

佐藤潤伝道師

サムエル記上1:9~20、  
ルカによる福音書7:36~50  
交読詩編102:13~19  
讚美歌120、382、481、26

\*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。\*は祈禱当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。

### ■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 定期教会総会の恵みと課題の為に
4. 昇天日(14日)の為に
5. 永眠者記念礼拝の為に
6. 母の日の為に
7. 牧師・伝道師の為に
8. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
9. 病気の兄姉の為に

\*関東教区お祈りカレンダー 佐渡教会 村上教会 中条教会

第一部のまとめとして、神の安息について語られてきた。安息は天地創造以来、祝福として与えられ、すべての人が安息へ招かれている。

しかし私たちは神の安息を拒絶した。そこに人間の罪がある。それでも神は安息へ招き続けた。出エジプトの時、神はモーセによって神の民を安息へ招き入れようとした。しかし民は心がかたくなであったため、あずかることができなかった。これは私たちへの警告である。

その際、御言葉と「交ざり合う」（新共同訳「結び付き」）ことを語る。御言葉と私たちが信仰によって「結び付き」、御言葉を聞いた人々と「交ざり合う」。ディボーションの姿である。

そして心に留めたい。神は安息にあずからせるために主イエスを遣わされたことを。

「ヨシュアが彼らに安息を与えたのであれば」は、ギリシャ語ではイエスとなる。この書を聞く人は思っただろう。イスラエルを導き上ったのはヨシュアだ。

しかし私たちを神の安息に導き上るのはイエスだ。私たちを神の安息へと導いて下さるお方は主イエスである。

なぜイエスは私たちを安息へとお導きになれるのか。彼こそ、受肉した生ける神の言葉だからである。

「神の言葉は生きている」。主イエスこそ、受肉した生ける神の言葉である。この神の言葉は「いかなる両刃の剣よりも鋭い」。罪という病巣を切り離し、私たちの罪も汚れも明らかにする。それは感謝である。しかし一方で「神に弁明しなければならない」恐ろしいことである。

しかしこのお方は、私たちの大祭司である。

イエスは大祭司として私たちを十字架の命で執り成して下さる。

だから私たちは安息にあずかり、神の祝福の中で憩うことができる。

教会はこのお方に導かれて神の安息へ旅する群れである。共に信仰の旅を歩もう。